

史料館報

第 51 号
平成元年 9 月

岡山藩人物情報の

コンピユータ検索について

中野 美智子
(岡山大学附属図書館司書)

近世史料のデータベース

岡山藩人物情報データベース「諸職交替」は、古文書を素材にしたデータベースで、私の所属する岡山大学附属図書館で六二・六三年度に作成したものである。諸職交替は、当図書館が所蔵している池田家文庫の岡山藩政史料の一つで、内容は役職に就いた中・上級家臣の江戸全期にわたる職歴情報である。データベース「諸職交替」は、原史料の内容情報をコンピュータで検索できるようにしたもので、岡山大学総合情報処理センターのACOS-6システムに用意されているNECのソフトウェア、DATA-710を適用している。昨年一二月に同センターに登録し、学内オンライン検索システム

として公開した。

データベースの種類は、近年日本データ通信協会の提示した分類によれば、①案内を目的とした文献データベース類(索引誌・所蔵目録など)と、②事実の提示を目的としたファクトデータベースに分類される。①は文字情報を主要素とし、②は文字情報(人やものに関するリスト、ディレクトリ、辞書・事典、及び法令・議事録などの全文情報)、数値情報(諸統計、実験・観測データなど)、画像情報(地図・設計図など)をそれぞれ主要素とするものに分かれる(「図書館情報学ハンドブック」)。この分類によると、「諸職交替」は、文字情報を主体としたファクトデータベースの一種である。

目次

岡山藩人物情報のコンピュータ検索について……………中野美智子(1)
「文字記録史料と電算機応用に関する課題と解決」研究集会参加記……………山田 哲好(4)

史料館叢書 別巻1
「明治開化期の錦絵」の刊行……………(5)
既刊「史料館報」総目次……………(6)
受贈図書……………(11)
電報……………(19)

現在、私の知っている限りでは、近世史料のデータベースは、東大史料編纂所で開発中の「維新史料綱要網文」、歴史民俗博物館で開発中の「旧高旧領取調帳」がある。どちらもこの五月に实地見学をさせてもらう機会があった。いずれもファクトデータベースで、前者はいわゆるテキストデータベース(全文情報)である。両者ともデータベース化の対象は全国的な史料で、すでに活字化されたデータを入力しているものである。「諸職交替」はローカルのもので、原文書から古文書を解読してデータを作成し、入力したものである。

を、データベースと呼んでいる(「図書館情報学ハンドブック」)。「諸職交替」や、「旧高旧領取調帳」は、原史料のデータの性格が、データベース化に適していると言えよう。近世史料の文献データベースは、現在、岐阜県立文書館などで作成されている。今年四月に東京で開催された「文字記録史料と電算機応用に関する課題と解決」研究集会においても議論が集中したが、コンピュータによる機械検索の前提として、解決されなければならない問題があるように思う。

データベースは、各種のデータ内容・形態別に分類し、一定のフォーマットで記録し、必要なものを引き出すことが出来るように整理されたものである。一般に、磁気ディスクや磁気テープなどの機械可読媒体に蓄積され、組織化されたデータ群

永田治樹氏らの「文書目録情報のデータベース化の問題」(大学図書館研究 三三号)に指摘されているように、文書目録情報の内容とその記録方式を規定する標準的な目録規則とフォーマットの存在が必要である。この記述の要素の構造化と標準化が史料目録の電算化・機械検索の可能性・有効性の前提となることは、

私も「地方史料の整理論の動向について」（『地方史の新視点』所載）で指摘した。

東大史料編纂所では、古代・中世史料について、形態、様式、記載形式・内容を総合的に分析し、データベースの構築が試みられている。自身は、未だ実際の作業経験を持っていないが、この方法によれば、特に文書館学の立場で主張されている史料群の作成・伝存主体の組織体の構造を反映した階層構造（体系的秩序）を、再構成することも可能になるのではないかと思う。

「諸職交替」のデータベース化

岡山藩家臣団の人物情報源となる史料として、

①侍帳 寛永九 明治三年

切米帳 延宝元 明治三年

②奉公書（家別）三、〇五四冊

除帳 二八五冊

③藩庁編纂史料

奉公書集成 寛永二一年

寛文九年

諸職交替 安永六 享和二

慶応 明治二

がある。

このうち人物情報として最も詳細なものは、②と③の奉公書である。

③の多くは②に吸収されている。

私が「諸職交替」を知ったのは、

岡大教育学部の学生時代である。日本史の研究室で、恩師の故藤沢晋教授から、古びた一冊の大学ノートを見せられた。それは八丹幸八氏が「諸職交替」を筆写したもので、どんなに重宝しているかを話されたことが、印象に残っている。八丹氏は、岡山藩領の本格的な地誌「備陽記」や藩庁の編纂した地方資料集「撮要録」など大部の筆写を手がけた人物である。岡大文学部の日本史学科では、倉地克直氏が赴任されてから、図書館で池田家文庫の史料を用いての古文書講読ゼミが開講されている。学生達は課外の自主学習として、岡山藩法集を講読していて、法令文中の藩士の職歴情報を調べるため、頻繁に「諸職交替」を利用していた。

「諸職交替」（上下二巻）は、家老・小仕置など、岡山藩の格制、行政的職制七五種（目次による）について、職種ごとに更迭を記しているので、

特定の人物を検索する場合は大変労力がかかる。学生達は図書カードに記録を取り、人名ファイルを作ることを始めたが、中途で行き詰まった。それはカード形式の制約によるもので、情報の記入の数が限られ、表現

形式に工夫が要求され、より多くの項目の検索のためには、複数のカードを作成し配列しなければならぬ間に耐えられなくなったもので、当然のことであった。

データベース「諸職交替」の底本は、明治二年の最終編纂のものによった。文書「諸職交替」の情報の単位は、一職種一人物単位に記録されており、例えば番頭の伊庭求馬の場合、次のように記されている。

加二百石宝曆九卯四月

享保十八丑八より 千石 寄合

元文三年六月番頭末席 伊庭求馬

寛保三亥五より宝曆十二年二死

但宝曆五亥より小仕置

同九卯正より御部屋

これを分析して、データベース「諸職交替」では、次のようにデータ項目を取り、分類している。

姓名 伊庭求馬

禄高 一、〇〇〇石

加増 宝曆九・四 二〇〇石

格式 番頭

格式期間 享保十八・八 宝曆十

二・二

役職 小仕置

役職期間 宝曆五 宝曆十二

離任事情 宝曆十二死

兼役 宝曆九・一 御部屋附

前役 寄合

備考 元文三・六 宝曆三・五

番頭末席

このほかに、改姓名・号、新知、後役の記入のあるものがあるので、それぞれデータ項目とした。以上はすべて漢字のデータ項目で、漢字の綴りで検索できるものである。

禄高・加増・新知の項目は、単位（石・俵・扶持など）をコード化して英数字項目にすれば数量範囲検索が可能となるが、検索の必要度から考えて、あえてそれをしなかった。

さらに年代検索のために格式・役職期間の開始・終了年の西暦をデータ項目に加えた。和暦は数字項目ではないため、期間の正確な検索が出来ないためである。

そして、姓名、改姓名・号、格式、役職のローマ字読み項目（一次検索）と、姓名のABC順配列のためのローマ字読み項目（二次検索）を設けた。原史料には、固有名詞の仮名付けはなく、正しい読みは不明であるが、これは特に姓名の場合、漢字に宛字表記があるため、同音異語

の検索もれを防ぐねらいがあるので、全般に検索のスピード化のためである。但し、作業量の関係で、二つ以

上の読みを一つに絞らざるをえなかったので、選択基準は恣意的なものになっている。

以上のデータ項目にIDコードの項目を付し、全体で二四の項目をレコードの構成にしている。

レコード数全体は六、一七五個である。同一役職の再任は別件として扱っているので、件数は人数を示していない。

原史料に記載のない項目については、データは入れていない。出来るだけ原史料記載の形を残すため、これを奉公書など他の関連史料で補うということとはしていない。データ項目のうち姓名・格式・役職名・期間は、ほぼ全レコードにはいっており、アクセスポイントになっている。その他のデータ項目はフリーキーワードである。

ここで言うアクセスポイントは、データベースの中の項目のうち、統一した形で検索できるように処理をほどこしてある項目で、文献の主題を示す一般的な語がキーワード、索引・検索のためシソーラスで統制されているのがディスクリプタ、統制されずに資料中の語をそのまま索引語として用いたものがフリーキーワード(フリーターム)である(上田

修一「索引法の分類と名称」書誌索引展望 十三(一)。

データベース化のメリット

文書「諸職交替」とデータベース「諸職交替」を比較してみると、データベース化のメリットは、①原史料の情報の総合的分析によるデータの構造化、②情報入手の迅速化、③原史料の保存の三点に集約される。

①については、キーワードを作成する索引の技法からいうと、文献中に実際に使われている語句を索引語として使用する抽出索引法を用いたもので、主題索引の一種である。これは、研究用主題索引とするため原史料に依存して史料の表記に忠実に索引し、史料研究・史料批判に資する必要があるためである。

但し、アクセスポイントとなるデータの表現形式は、効率的な検索のために制約を加えている。例えば、役職名の場合、原史料では、④児小姓頭は、⑤御次児小姓頭と⑥御側児小姓頭に分かれてくるのであるが、これをそのままデータベースの中に表記すると、④で検索した場合、⑤と⑥は検索の対象からみれる。そこで、⑦を児小姓頭 御次、⑧を児小姓頭 御側という表現形式にして、

児小姓頭で検索すると(前方一致の機能を使用)、④⑤⑥を同時に検索できるようにした。DATA710はキーワードの通覧機能があるので、表現形式を確かめることも出来る。

②については検索技術の習得は必要であるが、全項目の検索が出来、主要項目はアクセスポイントになっていること、検索が即時的で所要時間が短い、年次順、人名のABC順の並べかえが出来、網羅的検索が即時的にできる、キーワード通覧ができる、検索結果をプリント出来ること、などである。

データベース「諸職交替」では、次のような事例の検索が出来る。

- (1) 特定の人物の役職歴
- (2) 特定の役職(格式)の歴代と在職期間
- (3) 特定の人物の特定の年代の役職
- (4) 特定の年代に特定の役職(格式)についている人物

- (5) (4)の場合、姓または名が不明確な場合の人名のフルネーム

「諸職交替」は、データベース化によって、原史料の内容情報を多元的、かつスピーディーに検索することが可能となり、岡山藩家臣団の職制・人物研究の研究支援ツールとして、有効な情報メディアを開発す

ることが出来たと考えている。

「奉公書」のデータベース化

データベース「諸職交替」によって、文書「諸職交替」の史料情報の構造が明確になってくると、人物情報源として最も詳細な家別「奉公書」の特性が一層重要になってきた。

「諸職交替」の記録対象が、ほぼ家老、番頭、物頭、寄合、近習頭分、組頭、組外、平士までのクラスに対し、「奉公書」は、完全ではないが、それ以下の土鉄砲・徒、軽輩・足軽を含む全クラスにわたり、池田家仕官以前の先祖書を含み、家系をたどれること(家督相続者のみ)や、職歴情報「諸職交替」に比べ詳細であること、などである。

そこで、学内の日本史教官倉地克直(代表)、上原兼善、久野修義の三氏と私の四人共同研究で「奉公書」のデータベース構築を企画し、幸い、初年次は福武学術文化振興財団の研究助成を得て、現在基礎的な史料分析を進めている。インデックスデータベースと史料画像データベースとの組み合わせにより、膨大な原史料の特性と学術研究利用とを適合させた情報検索システムの開発を意図している。

「文字記録史料と電算機応用に関する課題と解決」研究会参加記

山田 哲 好

本年四月一日から二日にかけて一泊二日の日程で、皇居の一角、千鳥ヶ淵の桜並木に囲まれた閑静なフエヤーマントホテルにおいて標記の研究会が開催された。

この研究会は、当館の森安彦教授が代表となり、各地で文字記録史料を対象とする情報処理のために電算機の応用を試みている大学・大学図書館・文書(史料)館勤務の歴史研究者やデータベース作成者等二十六名が参加し、その経験と知識の交流を図ることを目的として行われ、代表者挨拶と趣旨説明(当館・安澤秀一教授)の後、以下の報告がなされた。

(一日目)

- 1 岡山藩人物情報データベース「諸職交替」について(岡山大学附属図書館・中野美智子)
- 2 「宗門改帳」データベース(DANJURO)について(筑波大学学術情報処理センター・川口洋)
- 3 文書目録情報のデータベース化の問題(金沢大学附属図書館・

永田治樹/東京大学附属図書館・増田元、竹内比呂也)

- 4 文書・記録検索システムの試み(国士館大学・阿部昭)
- 5 近世・近代史料所在情報のデータベース化(筆者)

(二日目)

- 6 史料学とデータベース(東京大学史料編纂所・石上英一)
東京大学史料編纂所における古代・中世の古文書・聖教類データベースの構築(同・永村真)
- 7 近代行政文書目録作成時の電算機応用(東京都公文書館・水口政次、水野保)
- 8 SASによる統計書誌データベースの構築(関西大学経済学部・周防節雄)
- 9 明治期の統計データの復元について(一橋大学経済研究所・松田芳郎)

個々の報告について詳しく紹介する余裕(むしろ筆者の力量)はないが、簡単に要点を述べてみたい。

- 1は岡山大学附属図書館所蔵池田

家文書の中で、岡山藩士約五千人の姓名・役職名・禄高などが記載されている「諸職交替」のデータベース化について、史料の特性からその入力・検索方法とデータベース化による利点を具体的に報告され、さらに今後の展望として関連史料を補完する情報規模の拡大と電子ファイルの応用にもふれられた。2は近世の人口動態史料として代表的な「宗門改帳」のデータベース化の過程、その解析結果として男女別結婚年齢や世帯構成に地域格差があることが報告された。3は国策研究会文書(商工省官僚美濃部洋次氏旧蔵の戦時経済政策関係資料・現東京大学附属図書館蔵)目録のデータベース化の実例をあげながら、文書のもつ特質を考慮したデータベースの作成方法を報告された。4は栃木県立文書館における文書・記録検索システムについて、そのフローチャート、キーワード入力と検索方法について報告された。5は当館で文部省科学研究費総合研究(A)として現在継続中である「史料所在情報の蓄積検索システムに関する研究」の中間報告として、所在情報の基礎となる史(資)料目録類の書誌データベース(SACIS)と史料所在データベース(SINDB

AD)の概要についての報告である。6は東京大学史料編纂所歴史情報処理システム(SHIPS)の概要について史料学上の諸問題を提起され、具体的に古代・中世古文書・聖教類データベースの構築では画像データベースが目目された。7は東京都公文書館で所蔵する明治以降の行政文書件名目録作成について、特に学事文書を例に概要を報告された。8は一橋大学経済研究所における戦前・戦後に実施された統計調査に関連して、調査報告書の書誌情報も含む総合的な統計情報データベース(STAIONS)を構築するプロジェクトの概要について報告された。9は明治期の統計データの復元作業について、統計データそのものの特質や変遷、そして復元の可能性を具体例をあげながら報告された。

わが国では文字記録史料への電算機応用についてはその蓄積が乏しい現状にあるが、今回の研究会でこれまでの到達点や問題点、さらには今後の課題などを議論したことは、この分野の研究の進展に有益であったことから、今後も継続されることを願いたい。ただ惜しまれるのは一つ。例年より早まった見事な満開の桜並木を鑑賞できなかったこと。

『明治開化期の錦絵』の刊行

史料館の所蔵史料を広く利用していただくとうと、史料の翻刻を「史料館叢書」と名付けて、昭和五五年三月に公刊を始めて一〇年、昨六三年三月には第10巻を刊行するに至った。既刊分の中には品切れや在庫僅少の巻があるなど、幸いにご好評を得ることができたことは、館員の一人として感謝にたえない。

今年三月発行の昨六三年度の「叢書」を計画するにあたり、一〇冊を刊行し終えたことでもあり、収載史料の内容や翻刻形式を更に利用しやすいように見直していこうということになった。しかし、検討を始めるに簡単に結論に達しそうなものではないので、一〇冊刊行に区切りをつける意味で、思い切った企画を立てようということになり、所蔵の絵画史料を複製することにした。これを通じて、史料館に文字記録史料のほか絵画や地図、写真や民俗資料などの各種の史料を所蔵していることを再認識していただくよい機会にしたことも考えた。ただし、表示手段や媒体の異なる史料を所蔵していると

いうことと、従来の翻刻史料集と内容や版式が違う本を出版するのは別問題と考えて、第11巻とせず別巻1という扱いにしたものである。

本書は題名からもわかるように、明治前半のいわゆる文明開化期を中心に九九点(一〇二図)の錦絵を全品カラー印刷で収載したものである。史料の出所は、当史料館所蔵の「日本実業史博物館旧蔵資料」(文書記号37T)の中の「絵画の部」である。

日本実業史博物館について念のため説明すれば、日本の近代実業家の第一人者であった渋沢栄一が昭和六年に死没後、記念事業として計画されたものであるが、第二次大戦のために建物は実現に至らなかった。しかし、設立準備のため約一〇年間に収集した絵画、古文書、図書、民俗資料など多部門にわたる約一万点の資料は、当史料館が寄贈を受けた。これらの資料は、絵画に限らず、いずれも今日では得がたい資料であり、ことに一定の主題のもとで多角的な収集が試みられている点に特色がある。

ところで「絵画の部」には、錦絵のほか石版画、銅版画、油彩画などを併せて合計七二五点(九八二枚)が登録されており、このうち錦絵は六七五点である。今回はこのなかから九九点を選んだのであるが、選定にあたっては、「絵画の部」が当史料館の「所蔵史料目録」第十一集(昭和40年刊)に収録されてすでに公開していることを考慮して、「絵画の部」の紹介でなく、コレクションとしての特色を示すように努めた。

九九点の配列を、殖産興業・博覧会・西洋建築・交通・世相・諷刺画の六項目に分けたのは、その特色を反映させたものである。製糸・紡績に始まる工場生産体制の導入、それを国民に宣伝し啓蒙する博覧会は近代実業史の中心的題材として、多数の作品が残っている。そのなかで著名なもの、やや珍しいものを取り混ぜながら、建築物や交通機関(人力車や鉄道馬車、鉄道や蒸気船)という特徴的な対象に焦点をあてた。

「世相」は、ガスや電気、教育や娯楽のような、一項目に分類するだけの量に達しないものを集めたが、それだけに一点ごとには面白いものがある。この項の第一には、ええじやないか・(慶応三年)を収めた。

物価と新旧文物の対立興廃を扱った諷刺画は、戯画調の域を出ず諷刺の鋭さには欠けるが、収載の一二点がすべて別の絵師の作品であることは、明治期錦絵の性格の重要な一面を物語るものである。

なお、作品の選定に当っては、題材だけでなく作者(錦絵)についてもできるだけ多くの絵師の作品を採用するように心がけた結果、登場する絵師は三八人で、いずれも明治期の主要絵師である。

本書に収載したような明治期の錦絵は、これまで開化絵とか時には赤絵とよばれて、適切な評価を受けてきたうらみがある。それは、錦絵を絵画芸術の枠内で捉えて、そこに描かれた資料的意義を見過ごしてきたからといえよう。近年はこの傾向が見直されて、改めて再認識の動きがあるが、そうした研究に本書が多少とも役立ててもらえるなら幸いである。

東京大学出版会発行
B4横判 全カラー
解題・作品紹介・絵師略伝付載

一四〇頁 二重函入
定価二八、八四〇円

(八四〇円は消費税)

既刊『史料館報』総目次

但し各号所載の新収史料紹介・展示会・講習会
案内・事業報告(兼報)・歴史資料保存利用機関
連絡協議会(史料協)大会参加記は省略した

創刊号 昭和40年3月

創刊の辞……………史料館長吉里邦夫

史料館の当面する問題

民具収蔵庫の現況と問題点

湿度管制

近世史料の整理について

—公共図書館研究集会(整理部門)
に出講して—

館内での研究活動

第二号 昭和41年3月

この一年をふりかえって

史料の複写・貸出について

地方行政資料の整理について—全国
公共図書館研究集会に参加して—

民俗資料の保存管理(付票)

……………中村俊亀智

館内研究活動報告

第三号 昭和41年9月

就任のことば……………館長小和田武紀

研究

近世城下町の成立と展開

—川越を素材に—……………大野瑞男

家族史の諸問題……………大給近達

整理と保存

「津軽家文書」の整理を終えて

……………浅井潤子

……………浅井潤子

第五号 昭和42年8月

地方史の研究について……………鈴木 寿

研究

甲州の村方文書について

……………藤村潤一郎

近世後期における一万石大名

領陣屋町の経済的機能……………鶴岡実枝子

整理と保存

村方文書の整理と分類……………藤村潤一郎

民俗資料の保存管理(四)

……………中村俊亀智

鈴木家文書の船乗下人……………榎本宗次

代官手代の不正調査……………原島陽一

近世史料の所在調査

—実績と今後の課題—

所蔵史料の現況(三)

第六号 昭和43年3月

史料館について思うこと……………石井良助

研究

天領の研究について……………鈴木 寿

研究ノート

切支丹類族について……………榎本宗次

維新政治史関係史料ノート

……………鎌田永吉

整理と保存

近世史料の整理について

……………藤村潤一郎

民俗資料の保存管理

—呼称について—……………中村俊亀智

史料紹介

津軽藩の国替騒ぎ……………浅井潤子

民具の形態学—せなかあて—

……………中村俊亀智

第十三回近世史料担当者講習会

—総括と反省—……………大野瑞男

史料集と索引……………原島陽一

第七号 昭和43年8月

一つの提案……………大久保利謙

維新余聞……………鈴木 寿

古銭と寛永銭との切替について

……………榎本宗次

農村史料よりみた代官江川氏

……………大野瑞男

「トタン」考……………藤村潤一郎

整理と保存

加嶋屋長田家文書の整理を終えて

……………鶴岡実枝子

民俗資料の保存管理(六)

—測定について—……………中村俊亀智

民具の形態学・あみかこ

……………中村俊亀智

検見役人の収賄……………浅井潤子

所蔵史料の現況(四)

「史料館の内部組織等に関する規程」
の制定について

第八号 昭和44年3月

古文書館のことども……………宝月圭吾

天誅組罷り通る……………鈴木 寿

持寄旦那寺について……………浅井潤子

豆州内浦史料における京銭

……………浅井潤子

..... 榎本宗次
〔公銀貸付と大坂「融通組合」
..... 鶴岡実枝子

整理と保存

民俗資料の保存管理(七)

―「用途」の記載について―

..... 中村俊亀智

川柳と飛脚問屋十七屋..... 藤村潤一郎

近世史料雑感..... 大野瑞男

生活用具の形態学・み(箕)

..... 中村俊亀智

Kさんへの手紙―第14回講習会のあ

とで..... 原島陽一

第九号 昭和44年8月

福井県古文書・記録の調査

..... 小葉田淳

整理と保存

【所蔵史料目録】の作成を終えて

..... 鎌田永吉

民俗資料の保存管理(八)

―形態の記録について―

..... 中村俊亀智

生活用具の形態学(四)うけ(筭)

..... 中村俊亀智

情報

壬申戸籍の保存・利用問題

東京都公文書館

世田谷区立郷土資料館

史料館所在沿革(二)

歴史と文学と..... 鈴木 寿

戸越の今昔..... 浅井潤子

明治十年代山梨県経済動向につい

ての一答申..... 藤村潤一郎

第十号 昭和45年3月

資料保存・利用問題の展開と文部

省史料館..... 木村 礎

整理と保存

大名家文書の所在調査

―報告 その一―..... 第一史料室

民俗資料の保存管理:製作について

..... 中村俊亀智

情報

財団法人三井文庫

埼玉県立図書館文書館

歴史資料保存法の制定についての

学術会議の勧告

史料館の所在地沿革(二)

京都市拾軒組と江州布飛脚

..... 藤村潤一郎

生活用具の形態学(五)バラ

..... 中村俊亀智

第一一号 昭和45年8月

文部省史料館の役割..... 豊田 武

マイクロフィルムの整理と管理

マイクロフィルムの収集と管理に

ついて..... 藤村潤一郎

資料―諸機関におけるマイクロフイ

ルム管理の現況..... 第一史料室

整理と保存

宝幢寺文書の収集と整理

―近世寺院文書の収集と整理の一例―

..... 大野瑞男

商家の文書(二)..... 鶴岡実枝子

生活用具の形態学(六)かさ(笠)

..... 中村俊亀智

情報

山口県文書館の当面する二、三の

問題..... 広田暢久

史料館の所在地沿革(三)

文部省史料館発行定期刊行物の配布

方法について

第一二号 昭和45年12月

郷土史料館利用の経験..... 古島敏雄

文部省史料館における近世史料目録

の調査について..... 鈴木 寿

大名家文書の所在調査

―報告その二―

..... 第一史料室

整理と分類

「近世古文書学」問題点の素描

..... 榎本宗次

農村文書(二)―村方文書の性格―

..... 浅井潤子

生活用具の形態学(七)

..... 中村俊亀智

情報

北海道行政資料室の現状と当面の間

題点..... 北海道行政資料室仮

標題..... 久保田広司史

料収集の中で..... 小林利久

史料館の所在地沿革(四)

文部省史料館所蔵史料の撮影・

複写心得

第一三号 昭和46年3月

過疎地帯の史料―九州日田地方の調

査から..... 杉本 勲

整理と分類

県庁文書目録化に関する覚え書

..... 原島陽一

中間機構的史料について..... 鈴木 寿

商家の文書(二)―商業帳簿2(仕

入帳簿)..... 鶴岡実枝子

民俗資料

俗流管理論(上)..... 中村俊亀智

情報

郷土資料室の在り方..... 長光徳和

沖縄県立史料館(仮称)設立の動き

..... 名嘉正八郎

【北上市史】編集・刊行上の特徴

..... 斉藤尚巳

昭和四六年度新規事業について

第一四号 昭和46年7月

元禄の道程書上..... 児玉幸多

西日本地区「近世史料担当職員講

習会」を終えて

整理と分類

近世鉱山文書の整理

―荒谷家文書目録の作成を終えて―

..... 大野瑞男

府県庁文書の目録化と分類を

めぐって……………鈴江英一

史料館所蔵史料目録第一七集刊行

に寄せて……………大村進

農村文書(二)―村明細帳―

……………藤村潤一郎

民俗資料

俗流管理論(中)……………中村俊亀智

情報

京都府立総合資料館の現状と当面

の問題……………猪井達雄

古文書の活字化……………石田保

長崎県の郷土資料……………保

第一五号 昭和46年12月

古文書の保存科学……………岩崎友吉

整理と分類

県庁文書の分類について……………原島陽一

民俗資料

俗流管理論(下)……………中村俊亀智

情報

市町村公文書の所在調査

―「宮崎県行政資料所在調査目録」―

……………東別府盛雄

財団法人福島県文化センター

歴史資料館……………菅田宏

短信

「地方史静岡」の刊行……………朝比奈豪

地方における研究活動の組織化

―福井県郷土誌懇談会の場合―

……………井口昌保

所在調査

大名家文書の所在調査

―報告その3―……………第一史料室

近世史料目録所在調査の終了に

ついて……………

第一六号 昭和47年3月

私擬「歴史資料保存法」案と提唱

……………林英夫

所在調査

福井県下の古文書所在調査

……………舟沢茂樹

情報

大量資料段階の資料館・博物館

建築―最近の二、三の傾向について―

……………中村俊亀智

茨城県歴史館建設の現況……………川上宏昭

多久私立図書館管理の歴史資料の

現状と問題……………細川章

古文書類の蒐集……………桜木保

文部省史料館発行「所蔵史料目録」

(第一集、第二集)・「民俗資料図版

目録」内容紹介

第一七号 昭和47年11月

文部省史料館の改組について

金石文の調査……………金山正好

「須田家文書」の整理を終えて

……………藤村潤一郎

複雑な村方文書整理……………浅井潤子

地方史(誌)編集刊行上の問題

……………伊藤忠芳

史料収集から……………花田勝彦

史料館改組関係法令

第一八号 昭和48年3月

マイクロフィルム化史料の管理と

利用……………原島陽一

農村文書(三)年貢割付と皆済

目録……………大野瑞男

博物館における文書館としての

役割……………能嶋紘一

行政資料について……………渋谷哲成

第十八回近世史料取扱講習会

に参加して……………弘格

近世史料目録の調査

第十九号 昭和48年10月

史料の保存と研究……………井上勝生

図書館併置の文書館的施設に

ついて……………三浦俊明

松前町における町史編纂について

……………榎森進

「相良家文書目録」の作成を終え

て……………上田満子

統維新政治史関係史料ノート

……………鎌田永吉

第二〇号 昭和49年3月

史料保存問題と研究者―井上勝生論

文にふれて……………色川大吉

大川家の樟脳製造……………榎本宗次

第二二号 昭和49年10月

明治期の学校日誌―「井上・色川

論争」に寄せつ―……………有泉貞夫

「藤沢市文書館」の現状と課題

……………高野修

近江湖東農村史料からみた名目金

の事例―鏡村庄屋日記より―

……………鶴岡実枝子

旗本家文書の所在調査について

……………第一史料室

第二二号 昭和50年3月

「歴史資料保存利用機関連絡協

議会」の組織化と今後の問題

……………佐久間好雄

国立史料館の史料所在調査に参加し

て―その反省と問題点―

……………吉永昭

所在調査報告Ⅱ三州設案郡出沢村

滝川家文書・丹後地方農村文書

近世史料目録の調査と収集

所在調査Ⅱ旗本家文書(その1)

第二三号 昭和50年12月

古文書と私……………相原隆三

「村」と村方騒動―信州佐久郡下

海瀬村―……………大野瑞男

史料所在調査報告Ⅲ真田家文書・

出羽国平鹿郡角間川本郷家文書

史料のマイクロ写真化と撮影基準

第二四号 昭和51年3月

山形県編さんと地域史研究

……………梅津保一

「飯田家文書」の整理を終えて

……………藤村潤一郎

近世史料目録の調査・収集と今後

の課題……………山田哲好

歴史資料保存利用機関連絡協議会

創立大会に出席して……………鎌田永吉

第二五号 昭和51年10月

新築工事に伴う史料の閲覧停止について

『東京市史稿』の編纂について

……………菊池 昭

農村文化と茶道―「千秋家文書」

の整理を終えて……………浅井潤子

第二六号 昭和52年3月

東寺百合文書の整理について

……………上島 有

所在調査報告―山形県大石町田高

桑家文書ほか・安房国荒川村高梨

家文書

史料紹介―京都「諸州国々飛脚便

宜鑑」について……………藤村潤一郎

第二七号 昭和52年10月

農書校注の経験……………古島敏雄

史料と蔵書印のこと……………原島陽一

銀座史料「諸国灰吹銀寄」に

ついて……………榎本宗次

年貢皆済目録の成立……………大野瑞男

史料館資料利用規程

第二八号 昭和53年3月

大阪編年史刊行について……………藤本 篤

所在調査報告―茨城県那珂郡大宮

町四倉家文書ほか・静岡県浜名郡

新居町戸長役場文書ほか

寛永期の「吉利支丹起請文」から

みた京都六角町の住民構成

……………鶴岡実枝子

第二九号 昭和53年9月

九州の石炭産業史料について

……………秀村選三

『真田家文書』(その一)の整理を

終って……………原島陽一

史料とラベル……………原島陽一

近世史料目録の調査・収集報告

第三〇号 昭和54年3月

近世史料体系化への途……………中井信彦

外国文書館見て歩き 昭和五十三

年度在外研究報告……………大野瑞男

所在調査報告―山梨県南巨摩郡

沢町原田家文書ほか

「豆州内浦史料目録」の作成を

終えて……………大藤 修

地方史関係雑誌の収集について

……………図書委員会

第三一号 昭和54年9月

漁村史料の伝来について……………網野善彦

史料館叢書の発刊……………大野瑞男

所在調査報告―兵庫県姫路市・姫

路酒井家文書

古い蔵書印とラベル……………原島陽一

寛文期の算用帖からみた江戸の

「近江店」……………鶴岡実枝子

第三二号 昭和55年3月

村入用帳について……………神崎彰利

一つの宝篋印塔―「木村家文書」

の整理を終えて……………藤村潤一郎

所在調査報告―下野国河内郡町谷

村渡辺家文書・美濃国方県郡国島

家文書ほか

「史料館所蔵目録一覽」の刊行

史料館所蔵史料目録(第21集・第

32集)内容目次

第三三号 昭和55年9月

フランス・オランダの文書館

……………加藤栄一

『寛文朱印留』の翻刻と校訂

……………大野瑞男

史料の原形保存……………原島陽一

「平松家文書目録」の作成を終

えて……………笠谷和比古

第三四号 昭和56年3月

瀬戸内海歴史民俗資料館とその

活動……………徳山久夫

二つの国際会議に参加して

……………安澤秀一

『津軽家御定書』の翻刻……………浅井潤子

史料の原形保存(続)……………原島陽一

史料所在調査報告―上野国利根

郡門前区有文書・上総国山辺郡

道庭村石橋家文書ほか

第三五号 昭和56年9月

市史編さんと史料保存……………本多寅太郎

第九回文書館国際会議での諸報告

……………安澤秀一

維新と一豪農の「家」―出羽国

秋田郡二井田村一関家の

「家訓」の検討……………大藤 修

整理の実務―史料の登録―

……………原島陽一

第三六号 昭和57年3月

史料と保存科学―防殺虫をめぐ

つて……………岩崎友吉

秋田藩家臣文書の整理……………大野瑞男

『播磨屋中井家永代帳』の刊行

……………鶴岡実枝子

史料所在調査報告―陸奥国閉伊

郡穴沢村工藤家文書・陸奥国白

川郡諸家文書

第三七号 昭和57年9月

地域住民の手で史料館が建つまで

―刈谷市野田史料館の場合―

……………加藤鉄衛

保存管理国際会議ケンブリッジ

一九八〇……………安澤秀一

百姓身の上り出入一件―「林家文書」

の整理を終えて……………浅井潤子

追悼 故榎本宗次史料館長

近世史料所在情報の体系化に

向けて……………山田哲好

第三八号 昭和58年3月

近代行政文書の整理と文書館

……………水野 保

寛文八年の香奠帳―小谷家文書の

整理を終えて……………安澤秀一

【徳島藩職制取調書抜】上の刊行

史料館の役割と史料保存体制

史料所在調査報告Ⅱ安芸国山県

郡都志見村香川家文書・三河国

八名郡乗本村菅沼家文書ほか

第三九号 昭和58年9月

善徳寺文書目録を作成して

高澤裕一

史料の装備と配架……………原島陽一

ユネスコ本部文書館専門官エヴァ

ンス博士を案内して……………安澤秀一

近世史料の名称付与の作業につ

いて―「真田家文書」の整理を

終えて……………笠谷和比古

第四〇号 昭和59年3月

歴史資料の保存科学……………江本義理

史料の装備と配架(統)……………原島陽一

史料所在調査報告Ⅱ和泉国日根郡

熊取谷五門村中家文書

文書目録の編成に関する一、二の

問題……………安藤正人

第四一号 昭和59年9月

史料保存と歴史資料館……………梅津保一

特殊形態の史料の取扱い……………原島陽一

奥三河農村における年貢免状につ

いて……………鶴岡実枝子

【徳島藩職制取調書抜】(上・下

巻)の索引作成……………広瀬 睦

史料所在調査報告Ⅱ京都冷泉町文書

史料協・関東部会設立準備会参加記

第四二号 昭和60年3月

近代史料における私文書について

……………海野福寿

史料所在調査報告Ⅱ近江国高島郡

在原区有文書ほか・信濃国埴科郡

下戸倉村坂井家文書

【依田長安一代記】の刊行

第一〇回史料館国際会議ボン一九

八四と研修セミナー……………安澤秀一

第四三号 昭和60年9月

古文書の調査とアーキヴィスト

……………北原 進

史料受入れ記録の保存……………原島陽一

史料形態がもつ意義……………原島陽一

冊子型史料の諸形態と表記用語

……………大藤 修

【鈴木家文書目録】の作成を終

えて……………藤村潤一郎

史料館の役割と史料保存利用体制

―中間報告―

第四四号 昭和61年3月

文部省科学研究費補助金による史

料所在情報の収集にあたって

アジア・太平洋地域アーキヴィス

ト養成センターの設立をめぐる

……………千代正明

史料所在調査報告Ⅱ越中国射水郡

高岡横田町岡本家文書・信濃国埴

科郡下戸倉村坂井家文書

全史料協第一一回大会に参加して

〔全史料協の要請書〕

第四五号 昭和61年9月

市町村編さんに参加して……………林 玲子

宗門送手形の書式と「案書」

―所蔵史料目録第四十四集の整理

を終えて……………浅井潤子

I C A ・ J S A I

第一回文書館振興国際会議に参加

して……………安澤秀一

【真田家家中明細書】の刊行

近江国草津宿と飛脚屋……………藤村潤一郎

第四六号 昭和62年3月

県史編纂と県立文書館……………阿部 昭

農民史料の名称付与について

……………笠谷和比古

史料所在調査報告Ⅱ信濃国安曇郡

穂高町村小川家文書・長門国阿武

郡萩城下呉服町菊屋家文書

【大塩平八郎一件書留】の刊行

第四七号 昭和62年9月

近代行政文書復元の一事例と文書

資料の原形記録について……………田中康雄

新田開発人の特権の消長―所蔵史

料目録第四十五集の刊行によせて―

……………森 安彦

史料所在調査報告Ⅱ長門国阿武郡

萩城下呉服町菊屋家文書・陸奥国

磐井郡楊生村阿部家文書

補修の記録化……………原島陽一

「文書館学」研修会開催について

第四八号 昭和63年4月

公文書館法の成立によせて

―岩上二郎議員の趣旨説明を中心

として……………所理喜夫

相州土屋村原家と定飛脚問屋

……………藤村潤一郎

ロンドン大学の文書館学大学院に

学んで……………安藤正人

六二年度予算の追加配分について

【近江国鏡村玉尾家永代帳】の刊行

第四九号 昭和63年9月

公文書館法と地方自治体における

文書管理・史料保存……………佐藤勝巳

文部省科学研究費補助金による研

究成果報告

旧家の家伝について―慈尊院中橋家

文書の整理を終えて……………鶴岡実枝子

史料の収集と受入……………原島陽一

【史料の整理と管理】の刊行

第五〇号 平成元年3月

「移転」問題と「史料館」の現況

近代行政文書の課題……………中谷 弼

第一一回国際文書館会議と第一回

国際アーキビスト養成コロキアム

に参加して

史料所在調査報告Ⅱ遠江国引佐郡

伊目村白柳家・同郡五日市場村区

有文書

受贈図書 昭和六十三年度 (二)

- 向日市埋蔵文化財調査報告書 第22集〔向日市教育委員会〕
- 新修大阪市史 第1巻
羽曳野市埋蔵文化財調査報告書 16〔羽曳野市教育委員会〕
- 泉南市文化財調査報告書 第十五集〔泉南市教育委員会〕
- 〔大阪府〕 阪南町埋蔵文化財報告・V・VI〔阪南町教育委員会〕
- 兵庫県史 史料編 中世3
姫路市史 第14巻
- 〔兵庫県〕 津名町史 本編・資料編
尼崎部落解放史〔尼崎同和問題啓発促進協会〕
- 兵庫県立歴史博物館総合調査報告書 III
- 千代川流域の民俗〔千代川流域の民俗総合調査団〕
- 岡山県史 第30巻
松山市史料集 第13集
久留米市文化財調査報告書 第55集〔久留米市教育委員会〕
- 〔佐賀県〕 有田町史 商業編Ⅱ・古窯編・索引年表編
埋蔵文化財調査研究報告Ⅱ〔宮崎県総合博物館〕
- 岩波書店七十年 書名総索引
カシムがやってきた縄文人のくらし〔目黒区守屋教育会館〕
- 洋学資料による日本文化史の研究 I〔吉備洋学資料研究会〕
- 色川三中の研究 伝記篇〔塙書房〕
コミュニケーション事典〔平凡社〕
- 占領期日本教育に関する在米史料の調査報告〔国立教育研究所〕
- 諸国叢書 第5輯〔成城大学民俗学研究所〕
- 山村生活50年その文化変化の研究〔同右〕
- 歴史と民俗 3〔神奈川大学日本常民文化研究所〕
- 〔ル・モンド・イリュストレ〕日本関係さし絵集・記事集 第2巻
- 〔横浜開港資料館〕
デザインの世界 1988・8・〔美術出版社〕
- 松浦武四郎没後百年記念展〔北海道開拓記念館〕
- 津軽海峡縄文美術展図録〔青森県立郷土館〕
- 近世土浦の名宝展展示図録〔土浦市立博物館〕
- 清朝のガラス 1644—1911〔サントリー美術館〕
- 日本の物語絵〔同右〕
- 北欧・トナカイ遊牧民の工芸〔日本民芸館〕
- 川崎浮世絵展〔川崎市立産業会館〕
- 一向一揆〔石川県立歴史博物館〕
- 駿河国とその周辺〔沼津市歴史民俗資料館〕
- 静岡・清水平野の弥生時代〔静岡市立登呂博物館〕
- 丹後国一宮葦神社の秘宝〔京都府立丹後郷土資料館〕
- 宇治の文華〔宇治市歴史資料館〕
- テーマは遊〔兵庫県立歴史博物館〕
- 日本荘園絵図聚影 三 近畿二〔東京大学史料編纂所〕
- 大日本史料 第二編之二十四・第十編之十九・第十二編之五十一〔同右〕
- 大日本近世史料 市中取締類集十八・幕府書物方日記十八・細川家史料十
- 一〔同右〕
- 大日本古記録 後愚昧記三・岡屋閑白記〔同右〕
- 東京大学史料編纂所所蔵の影写本収載古文書検索システムの開発〔同右〕
- 学校教育に生きる博物館活動を目指して〔小山市立博物館〕
- 演劇博物館資料ものがたり〔早稲田大学坪内博士記念演劇博物館〕
- 藤江家旧蔵小杉文庫名品抄〔静岡県立美術館〕
- 〔翻刻〕旧三井文庫本「耳囊」〔巻一〕〔長谷川強〕
- 調査研究報告 第9号
浅草寺日記 第十二巻〔金龍山浅草寺〕
- 比較史の観点による史料学の総合的研究〔大阪市立大学文学部〕
- 明治維新と中国〔六興出版〕
春日局〔角川書店〕
- 北海道史略年表〔北海道立文書館〕
〔北海道〕 松前町史 通説編 第一巻下
- 遠野七観音〔遠野市立博物館〕
- 遠野市の仏像〔同右〕
- 遠野市の指定文化財〔同右〕
- 仙台市文化財調査報告書 第66・107・111・113・116・117・119・122集〔仙台市教育委員会〕
- 鹿角市史資料編 第十九集
長井市史 年表・索引編
- 遊佐郷村落誌 (上)・(下)〔山形県遊佐町史編さん委員会〕
- 山形市史資料 第74号
〔山形県〕 余目町史 上巻
余目町史資料 第一・二号
余目町の獅子踊〔余目町教育委員会〕
余目町の神楽〔同右〕

- 余目町の絵馬〔同右〕
- 郷土資料叢書 第14・18輯〔山形県
新庄図書館〕
- 寒河江市史編纂叢書 第12・19・37
集
- 天童市史編集資料 第45号
- 上山見聞隨筆 付図集〔上山市史編
さん委員会〕
- 宿場町楯下の集落形態〔同右〕
- 山形県新庄市教育委員会報告書 7
〔福島県〕梁川町史 7
〔茨城県〕岩間町史資料集 第5号
鉾山と市民〔日立市〕
- 真岡市史 第七・八巻
- 大田区史跡ガイド〔大田区教育委員
会〕
- 厚木市史 地形地質編、原始編・近
世資料編(1)
- 藤沢市史料集(十三)
- 足羽山の主な史跡と墓碑石〔福井市
立郷土歴史博物館〕
- 恵那地域誌 続恵那郡史〔中津川・
恵那広域行政事務組合〕
- 新編岡崎市史 12
- 新修稲沢市史 資料編五
- 三重県史 資料編 近代2・3
- 旧伊勢神戸藩主本多家史料〔大手前
女子大学史学研究所〕
- 京都市町名変遷史 1〔京都市町名
変遷史研究所〕
- 羽曳野資料叢書 1〔羽曳野市〕
- 大阪市史史料 第24輯
- 〔和歌山県〕かつらぎ町史 近世史
料編
- 南国市史資料 旧村誌編(3)
- 福岡県史 近代史料編 福岡県地理
全誌(一)・民俗資料編 ムラの生
活(下)
- 中村平左衛門日記 第六巻〔北九州
市立歴史博物館〕
- 〔長崎県〕三井楽町郷土誌
- 宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書
第4集 本文編・図面編・図版編
〔宮崎県教育委員会〕
- 鹿児島県史料 鎌田正純日記〔鹿児
島県歴史資料センター黎明館〕
- 橋本綱常博士の生涯〔福井市立郷土
博物館〕
- 黒正敵博士遺稿集〔日本経済史研究
所〕
- 新訂了義院日達上人正伝〔行傳寺〕
- 東洋大学百年史 資料編1・上
横浜もののはじめ考〔横浜開港資料
館〕
- 神奈川大学日本常民文化研究所調査
報告 第13集
- 協会75年の歩み〔日本航空協会〕
- 松尾芭蕉とおくのほそ道〔江東区芭
蕉記念館〕
- 湖州鏡と古鏡展〔釧路市立博物館〕
- 鬼・オニ・おに〔岩手県立博物館〕
- 北奥の甲冑展〔同右〕
- カマ神 火をまもる神々の表情〔東
北歴史資料館〕
- 下野と近世大名〔栃木県立博物館〕
- 古河公方文書展〔埼玉県立文書館〕
- サントリー美術館大賞展 '88
- 円山応挙の写生と風景 1988
〔三井文庫〕
- 江戸のあそび〔品川区立品川歴史館〕
- 鷹狩り―歴史と美術―〔大田区立郷
土博物館〕
- 激動を生きた代官の妻〔世田谷区立
郷土資料館〕
- 神奈川の金銅仏〔神奈川県立博物館〕
- 豊前氏の古文書〔神奈川県立文化資
料館〕
- 有隣舎をめぐる人々〔宮市博物館〕
- 一宮の名宝 〔II〕〔同右〕
- 小松の文化財〔小松市立博物館〕
- 竹の文化〔向日市文化資料館〕
- 禅利 丹波・丹後〔京都府立丹後郷
土資料館〕
- 秀吉と大阪城〔大阪城天守閣〕
- 近世の屏風絵〔兵庫県立歴史博物館〕
- 北海学園大学増加図書目録 第23号
- 小樽商科大学経済研究所特殊文献目
録 6
- 釧路市立博物館収蔵資料目録 〔VI〕
〔VIII〕
- 札幌市中央図書館蔵書目録 第6巻
- 札幌大学図書館蔵書目録 第4巻
- 札幌大学図書館所蔵雑誌目録 19
83年版 補遺5
- 苫小牧市博物館所蔵資料目録 1・
2
- 函館海産商同業協同組合寄託資料目
録〔函館大学図書館〕
- 北海道立図書館蔵書目録 第20分冊
- 北海道立図書館所蔵資料目録 2・
4
- 北海道立文書館所蔵公文書件名目録
2・3
- 北海道開拓記念館一括資料目録 第
20集
- 北海道開拓記念館収蔵資料分類目録
8
- 遠野市立図書館博物館郷土資料目録
- 宮本文書集目録〔遠野市教育委員会〕
- 宮崎県内公共図書館所蔵逐次刊行物
総合目録〔宮城県図書館〕
- 仙台市民図書館郷土資料目録 17・
18
- 秋田県歴史資料目録 第二十四集
〔秋田県立秋田図書館〕
- 〔秋田県〕比内町文化財目録 第七
号〔比内町教育委員会〕
- 酒田市立図書館所蔵石原莞爾旧蔵書
目録〔酒田市立図書館〕
- 酒田市立光丘文庫所蔵国書分類目録

〔同右〕
諸家文書目録 I / IV〔鶴岡市郷土資料館〕

山形県史料所在目録 第7集
〔福島県〕桑折町歴史資料所在目録 第8・9分冊

郡山市図書館蔵書目録〔索引共〕
蔵書目録 第30・31集〔福島県立図書館〕

歴史資料館収蔵資料目録 第17集
〔福島県文化センター〕
史料目録 22〔茨城県立歴史館〕

茨城県立歴史館蔵書目録 一般図書
茨城大学附属図書館郷土史料目録 五

〔茨城県〕大穂の古文書〔大穂町史編纂委員会〕
取手市史資料目録 第十集

日上市郷土博物館収蔵資料目録 第7集
日上市関係新聞記事表題索引目録 第三〔同右〕

書誌・書目シリーズ6 笠木文庫目録〔図書館情報大学附属図書館〕

栃木県史料所在目録 17〔栃木県立図書館〕
真岡市史資料所在目録 第7集

栃木県立図書館クラシック・レコード目録 第2巻

栃木県立博物館人文部門収蔵資料目録 第1・2集

栃木県郷土資料総合目録 累積版〔本文篇〕・〔索引篇〕〔栃木県立図書館〕

群馬県郷土資料総合目録〔追録10〕
〔群馬県立図書館〕
群馬県立文書館収蔵文書目録 5

群馬県行政文書件名目録 第1・2集〔同右〕
伊勢崎市立図書館増加図書目録

郷土資料目録 下巻〔同右〕
群馬県近世史資料所在目録 30
群馬大学附属図書館所蔵新田文庫目録 I

群馬大学附属図書館所蔵勝守すみ文庫目録
群馬県立歴史博物館所蔵資料目録
群馬県立文書館収蔵文書目録 第26・27集

埼玉県立文書館増加図書目録
埼玉県行政文書総目録 第3集・〔別編〕〔同右〕

収蔵資料目録 II〔埼玉県立歴史資料館〕
東金市台方前嶋家文書目録 1〔千葉県〕

葉泉総務部文書課〕
船橋市西図書館所蔵資料目録 第2集

〔千葉県〕袖ヶ浦町史料目録 補遺

編〔袖ヶ浦町教育委員会〕
〔千葉県〕山武町古文書目録 II・IV〔山武町役場企画課〕

東京大学史料編纂所日本関係海外史料目録 15
正倉院文書目録 一・二〔同右〕

東京都公文書館所蔵庁内刊行資料目録 22・23
蔵書目録―同和問題を中心として―

〔東京都産業労働会館図書資料室〕
東京都立中央図書館蔵書目録 1979・1983 総記、哲学、芸術、語学・文学・書名索引〔2冊〕

八王子市郷土資料館収蔵古文書目録 第1集〔八王子市教育委員会〕

八王子市郷土資料館収蔵古文書目録 諸家文書 I・大塚家文書〔同右〕
女性関係所蔵論文目録〔稿〕〔東京家政学院大学図書館〕

食関係所蔵論文目録〔稿〕〔同右〕
禅宗地方史調査会年報 第四集〔禅宗地方史調査会〕

郷土資料室所蔵史料目録 三〔目黒区守屋教育会館郷土資料室〕
資料目録―1987年版―〔東京都情報連絡室情報公開部都民情報課〕

〔東京都〕日の出町史料所在目録 第3集
二松学舎大学附属図書館蔵逐次刊行物目録

常陸国下館藩家老牧家文書目録〔学智院大学史料館〕

古文書目録 第十集〔小平市中央図書館〕
明治大学刑事博物館目録 第52・53号

東大和市古文書目録 (II)〔東大和市教育委員会〕
芭蕉記念館所蔵資料目録 IV〔江東区芭蕉記念館〕

国士館大学増加図書目録 昭和61年版〔索引共〕
森田文庫資料目録〔福生市教育委員会〕

武蔵国豊島郡角管村名主渡辺家文書目録〔新宿区教育委員会〕
厚沢留次郎文書目録〔国立教育研究所〕

大田区立郷土博物館収蔵品目録
高尾山薬王院文書目録〔法政大学多摩図書館地方資料室〕

〔神奈川県〕寒川町史資料所在目録 第2・3集
寒川町史新聞記事目録 第1集

ブルーム・コレクション書籍目録 第3・4巻〔横浜開港資料館〕
木村芥舟とその資料 旧幕臣の記録〔同右〕

神奈川県立文化資料館蔵書目録 第2集

神奈川県立文化資料館蔵書目録 第2集

神奈川県立図書館蔵書目録 和書の部 第17・18

小田原市立図書館目録シリーズ 11

神奈川大学図書館蔵書目録 和書・洋書

藤沢市史資料所在目録稿 第20集

〔藤沢市文書館〕

藤沢市市民資料室行政資料目録〔藤沢市相談情報センター文書館〕

横浜市史資料所在目録―近・現代―

第1集

〔神奈川県〕城山町史新聞記事目録

伊勢原市史資料所在目録 1

〔新潟県〕川西町史料目録 No.10

19

新発田市立図書館郷土資料目録

礪波市歴史資料調査報告書 第四集

〔礪波市教育委員会〕

富山県公文書館文書目録 歴史文書

1

金沢市元町旧河北郡大衆免村本岡三郎家文書目録〔本岡三郎〕

加越能文庫解説目録 下巻〔金沢市立図書館〕

金沢市寺中町大野湊神社目録〔同右〕

金沢市立図書館蔵郷土近代俳諧資料等目録

九谷文庫目録〔同右〕

〔福井県〕今立町史料目録

山梨県立図書館所蔵古文書目録 7

山梨県立図書館所蔵国書目録 山梨県所在史料目録 第21・22集

〔岐阜県歴史資料館〕

岐阜県行政文書目録 昭和39年以前編〔同右〕

岐阜県史料調査報告書 第9号〔同右〕

岐阜県歴史資料館蔵宮崎肇文書〔岐阜県郷土資料目録刊行会〕

岐阜市洞松井家文書目録〔岐阜市歴史博物館〕

〔静岡県〕新居町の古文書―目録編 4―〔新居町教育委員会〕

岩本山実相寺文書目録〔岩本山実相寺〕

静岡県立中央図書館郷土資料目録

藤江家旧蔵小杉文庫目録〔静岡県教育委員会〕

沼津市明治史料館史料目録 1

〔静岡県〕小山町史料所在目録 第2・6集

愛知図書館蔵書目録 第6巻

蟹江慶次郎旧蔵書目録〔名古屋市蓬左文庫〕

刈谷市郷土資料館資料目録

刈谷市郷土資料館収蔵文書目録

南山大学人類学研究所学術雑誌目録 1988

三重県史料調査報告書 III

太田家古文書目録〔神官文庫〕

滋賀大学経済学部附属史料館所蔵史料目録 第37集

三重県立博物館資料目録 I・III

京都府資料目録 追録 No.4〔京都府立総合資料館〕

大阪府立大学増加図書目録 第54・55集

和泉国日根郡熊取谷中家文書目録

〔大阪府熊取町教育委員会〕

大阪府立中央図書館蔵書目録 第19巻

大阪関係地図目録〔同右〕

後藤文庫目録〔堺市立中央図書館〕

川中家文書目録 近世の部〔大阪府公文書館〕

芦屋市史編集資料目録集 3

姫路市史編集資料目録集 29・31

神戸市立博物館蔵品目録 考古、歴史の部 4・地図の部 4・美術の部 4

収蔵資料目録 3〔兵庫県立歴史博物館〕

第二輯

関西学院大学図書館所蔵史料目録

〔兵庫〕県立篠山鳳鳴高等学校図書館蔵青山記念文庫について

淡路文化史料館収蔵史料目録 第一集

奈良教育大学増加図書目録 14

資料調査報告書 第十五集〔鳥取県立博物館〕

立博物館

蔵書目録 第18巻〔鳥取大学附属図書館〕

金光図書館蔵神徳書院文庫目録

〔金光図書館〕

岡山大学所蔵業合文庫塩尻文庫目録

岡山大学所蔵大原農書文庫古医書集成目録

岡山大学所蔵近世庶民史料目録 第4巻

広島市立図書館蔵広島資料目録 第2巻

広島県立文書館複製資料目録 第1・2集

広島市公文書館所蔵資料目録 第9集

広島県行政資料目録 昭和16年版

〔広島県立図書館〕

広島県内公共図書館郷土資料目録 第32・33号〔同右〕

山口大学附属図書館所蔵棲息堂文庫目録

山口県文書館所蔵文書目録 6

山口県文書館地方調査員調査報告 15

徳島県博物館所蔵資料目録 第十七・十八号

四国女子大学所蔵凌霄文庫目録

歴史収蔵資料目録 十二〔瀬戸内海歴史民族資料館〕

九州文化史研究所蔵古文書目録

16〔九州大学文学部附属九州文化

史研究施設〕

福岡県郷土資料総合目録 12・13

〔福岡県立図書館〕

福岡市文化財調査目録 2〔福岡市

教育委員会〕

青柳種信関係資料目録〔福岡市立歴

史資料館〕

収蔵品目録 1・3〔福岡市博物館

建設準備室〕

佐賀大学附属図書館所蔵唐津藩庄屋

文書目録

長崎県の郷土資料〔長崎県立長崎図

書館〕

鹿児島県歴史資料センター黎明館所

蔵品目録 V

執務の手引〔千葉県文書館〕

第四十回正倉院展目録〔奈良国立博

物館〕

あだちの歴史散歩展〔足立区立郷土

博物館〕

サントリー美術館コレクション 沖

縄の染織と漆器〔サントリー美術

館〕

花のお江戸のエレキテル 平賀源内

とその時代〔同右〕

三井高陽コレクション 切手と文献

―〔三井文庫〕―

明治大学刑事博物館資料 第9集

住友史料叢書 銅座公用留・銅座御

用扣〔住友史料館〕

梅花学園百年史

永田衡吉文庫資料 1 永田衡吉文

庫目録〔民史研究資料館〕

雄武町のアイヌ語地名解〔廣瀬隆人〕

黒石市史 通史編Ⅱ 近代・現代

〔岩手県〕千厩町史資料 第九集

気仙の民俗芸能〔大船渡市立博物館〕

多賀城市史 第五巻 歴史史料(一)・

(二)

〔宮城県〕牡鹿町誌・上巻

仙台市文化財調査報告書 第98集

〔仙台市教育委員会〕

(以下次号)

彙

報

○平成元年度史料管理学研修会

(通算第三五回)の開催

本年度の研修会は、長期研修課程を四

四日間、短期研修課程を一日間と、そ

れぞれ期間を昨年度より延長して、長期

については左記の期間、場所、内容で実

施した。また、短期についても、左記の

要領で一月に実施する(既に受講者は

決定済み)。

A 長期研修課程 前期 平成元年七月一

○日、八月四日、後期 平成元年九月四

日、九月二九日、於国文学研究資料館。

(1)文書館総論・史料管理学序論

当館員 安澤 秀一

(2)地域社会と文書館

藤沢市文書館長 高野 修

(3)情報関連法制・行政組織論

東京大学社会科学研究所教授

井出 嘉憲

(4)情報学および情報サービス機関論

慶應義塾大学文学部教授

高山 正也

(5)史料保存環境論

群馬県立文書館古文書課長

田中 康雄

(6)NHK資料部における資料管理

NHK放送総局データ情報部副部长

前田 滋

(7)外交史料館における史料管理

外務省外交史料館専門官

吉村 道男

(8)史料の保存科学 I

東京国立文化財研究所修復技術部

第二修復技術研究室長

増田 勝彦

(9)同 II

東京芸術大学美術学部助手

稲葉 政満

(10)同 III

東京修復保存センター

「五日市アトリエ」代表

坂本 勇

(11)マイクロ写真の利用

大阪ビジュアル・コミュニケーション

専門学校長 後藤 公明

(12)税務大学校租税資料室における史料管

理 税務大学校租税資料室研究調査員

多仁 照廣

(13)視聴覚記録の保存と利用

常磐大学人間科学部教授

後藤 和彦

(14)映像資料の作成と保存

日本映像記録センター代表取締役

牛山 純一

(15)コンピュータの利用

京都大学大型計算機センター教授

星野 聡

(16)記録管理論

千代田化工建設株式会社審議役

作山 宗久

(17)近現代史料論 I

国立公文書館公文書課長 小林 一夫

(18)現代行政文書の評価と移管 I

北海道立文書館普及閲覧係長

鈴江 英一

(19)同 II

東京都公文書館主事 水口 政次

(20)近現代史料論 II

東京都公文書館主事 水口 政次

国立国会図書館専門資料部

政治史料課長 嶋田 邦彦

②1 近現代史料の整理と検索手段の作成 I

埼玉県立文書館行政文書課長 佐原 和久

②2 同 II

東京都公文書館主事 水野 保

②3 同 III

埼玉県立川越図書館司書 原 由美子

②4 史料の修復・補修

宮内庁書陵部補修師長 古閑 豊

②5 古代中世史料論

東京大学史料編さん所教授 黒田日出男

②6 近世史料論 I (幕藩史料)

東洋大学文学部教授 大野 瑞男

②7 同 II (町方史料)

当館員 鶴岡実枝子

②8 同 III (村方史料)

同前 浅井 潤子

②9 生活史料論

同前 森 安彦

③0 史料所在調査法・近世史料の整理と検索手段の作成 I、II

同前 大藤 修

③1 史料の収集と受入

史料の装備と配架 原島 陽一

③2 近世史料の整理と検索手段の作成 I、II

同前 原島 陽一

③3 近世史料の整理と検索手段の作成 I、II

同前 原島 陽一

③4 近世史料の整理と検索手段の作成 I、II

同前 原島 陽一

II

同前 安藤 正人

③5 史料の利用と情報サービス

同前 山田 哲好

B 短期研修課程 平成元年十一月六日、十一月十七日、於福岡ガーデンパレス。

(1) 史料管理学序論

前出 安澤 秀一

(2) 史料の保存科学

前出 稲葉 政満

(3) 史料保存環境論

山口県文書館専門研究員 北川 健

(4) 史料の修復・補修

宇佐美直八

(5) 九州大学石炭研究資料センターにおける史料管理

九州大学石炭研究資料センター助教 東定 宜昌

(6) 近現代史料の整理と検索手段の作成

栃木県立文書館指導主事 仲田 凱男

(7) 近世史料論 I (幕藩史料)

国際日本文化研究センター助教 笠谷和比古

(8) 同 II (町方・村方史料)

当館員 渡邊 尚志

(9) 近現代史料論

京都府立総合資料館歴史資料課長 中谷 弼

④0 史料所在調査法

前出 大藤 修

(11) 近世史料の整理と検索手段の作成

前出 安藤 正人

(12) 史料の装備と配架

前出 原島 陽一

(13) 史料の利用と情報サービス

前出 山田 哲好

○評議員会と運営協議会の開催

本年六月二三日運営協議会が、七月一〇日評議員会がそれぞれ開催され、管理運営の概況、昭和六三年度事業報告、平成二年度概算要求、名誉教授称号の授与、教官人事、等の議事が協議ないし評議された。

○定期刊行物の発行

1 『史料館所蔵史料目録』第四八集として「信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録」(その二)を、本年三月に刊行。

2 『史料館所蔵史料目録』第五〇集として「信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録」(その三)を、同第五一集として「信濃国松代真田家文書目録」(その五)を、同第五二集として「越後国頸城郡岩手村佐藤家文書目録」(その三)を、来年三月に刊行予定。

3 『史料館報』第五一号(本号)を刊行。なお、次号は来年三月刊行予定。

○文部省科学研究費補助金の交付

総合研究 A 「史料所在情報の蓄積検索システムに関する研究」

代表者 安澤 秀一

平成元年度交付分は六九〇万円。

○海外出張

安藤正人が、「第二回アーキビスト養成国際シンポジウム」(於イタリア・ミラノ)出席のため、本年九月三日、同二二日の間出張。

○人事異動

◇平成元年七月一日付で、山田哲好が文部事務官から助手に配置換えとなった。

(編集後記) 昭和四〇年に創刊された『史料館報』は、先号でちょうど五〇号となった。そこで、本号には創刊号から五〇号までの総目次を掲載した。

史料館報 第五一号

平成元年(一九八九)九月三〇日

編集・発行

東京都品川区豊町一ノ一六ノ一〇

国文学研究資料館内(〒一四二)

国立史料館

電話〇三(七八五)七一一一(代)

印刷所

東京都台東区寿三ノ一四ノ五

有限会社 スミダ

電話〇三(八四二)七三三三